



感染症対策の未来

広告

長崎大学坂本キャンパスへのBSL-4施設設置について考える

BSLとは…BioSafety Level(バイオセーフティレベル)の略称。起こす病気の危険度に応じて4段階に分類。

レベル1: 無害な病原体
(ワクチンなどの人に無害な病原体)

レベル2: 軽い病気を起こすが、治療・予防法があるような病原体
(食中毒細菌、インフルエンザウイルス、はしかウイルスなど)

レベル3: 重い病気を起こすが、治療・予防法があるような病原体
(結核菌、狂犬病ウイルス、高病原性鳥インフルエンザウイルスなど)

レベル4: 重い病気を起こし、かつ治療・予防法がないような病原体
(エボラウイルス、クリミア・コンゴ出血熱ウイルス、ラッサウイルスなど)

*BSL-4施設はレベル4の病原体を研究対象とするため、最高度の安全基準で建設される。
(病原体2重以上のエアフィルターを通す、器具等の完全な汚染除去、耐熱耐圧クリヤなど)

BSL-4施設設置について理解を求めた。当日は市民など約400人が参加。開会に先立ち片峰茂長崎大学長が「国や地域の危機管理と地球規模の感染症対策に貢献し、地域活性化にも寄与する施設の設置に対し、より広く皆様のご理解を深めていただきたい」と挨拶。続く濱本磨毅長崎県副知事と田上富久長崎市長の来賓挨拶の後、基調講演、プレゼンテーション、パネルディスカッションへと移った。

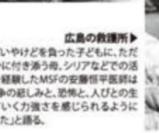
そこで長崎大学では10日、文部科学省との共催でシンポジウムを開催。海外の現場で活動する医師の講演や地域住民を交えたパネルディスカッションを通じて、BSL-4施設設置について理解を求めた。当日は市民など約400人が参加。開会に先立ち片峰茂長崎大学長が「国や地域の危機管理と地球規模の感染症対策に貢献し、地域活性化にも寄与する施設の設置に対し、より広く皆様のご理解を深めていただきたい」と挨拶。続く濱本磨毅長崎県副知事と田上富久長崎市長の来賓挨拶の後、基調講演、プレゼンテーション、パネルディスカッションへと移った。

「BSL-4施設」設置を、当地で検討している。海外来訪者の多い日本や長崎の安全確保にも重要な本施設だが、地域には安全面を不安視する声もある。

長崎大学医学部のある坂本キャンパス(長崎市坂本町)には「原爆後障害医療研究所」「熱帯医学研究所(以下、熱研)」があり、長年にわたり世界の保健医療に貢献している。分けても熱研は、感染症を主とする疾病・健康問題の克服に研究と人材育成の両面から貢献。WHO(世界保健機関)より「熱帯新興ウイルス」感染症に関するWHSO研究協力センターに指定されている。



熱帯医学研究資料
MSF
シリア
内戦が続くシリア、隣国にひびく子どもを助ける。MSFが支援するシリア難民キャンプで活動するMSFのスタッフが、子どもたちと交流している。シリアの子どもたちは、戦争の被害者となっている。



広島の養育所
ひびく子どもを助ける。シリアなどの活動を経験したMSFのスタッフが、子どもたちと交流している。シリアの子どもたちは、戦争の被害者となっている。

私は、第二次大戦後の日本の様子を伝える写真に残された、焼け野原となった長崎や広島で治療を受ける子どもたち、重度の栄養失調やマラリアにかかった子どもたちの姿を見て、驚きを隠せませんでした。戦後70年を過ぎた今も、世界の紛争地帯では、同じような光景が繰り返されているからです。

今回講演テーマにある「人道」とは、「それぞれの人が持っているお互いの権利を尊重することだ」と思います。大きな戦争の後には、特に途上国に向けた国際貢献の動きが起きます。

医師団の活動地域の8割近くがアフリカ、アジアと紛争の絶えない中東地域です。紛争で国が壊れ集団移動を受けられなかった子どもたちも多し。その子どもたちが感染症を拡大するという側面もあります。

一昨年の西アフリカでのエボラウイルス病流行では、私たちは当初から患者の治療に関わり、過去と違う勢いの感染拡大を国際社会に訴えました。WHOが非常事態宣言を出したのが4カ月後でした。私たちは400人以上の人材を派遣し、やっと終息しましたが、「遠いアフリカのことだ。私たちに関係ない」と思ってきたことのツケが回ってきたと感じました。

「人道」とは「それぞれの人が持っているお互いの権利を尊重することだ」と思います。大きな戦争の後には、特に途上国に向けた国際貢献の動きが起きます。



基調講演
これからの感染症に対して、人道援助団体の経験から
黒崎 伸子
医師/国境なき医師団日本前会長



先日から野口英世の言葉を思い出しました。「何かをするために生まれてきた。過去は変えられない。でも、未来は変えられる」という言葉です。私たちは長崎市民で日本国民だけで、地球の中のひとりの意識で、誰かのために生まれてきたのだと考え、生きるの戻つていくことができ、また自分自身も強く生きていけるのではないかと思います。私もなにかの形で皆さんに貢献し、一緒に手を携えていければと思っています。

世界に多種ある新興・再興感染症を克服するために、病原体の特性と感染や発症のメカニズムを解明し、さらに感染状況の調査や診断法、ワクチンや治療薬の開発といった試みが必要になります。そのために病原体を安全に取り扱って研究成果を創出するための

BSL-4施設は現在、世界23カ国・地域の52カ所以上で稼働しています。また、研究や診断目的から、多くの施設が市街地の大学構内や病院に隣接しています。が、近隣に病原体が漏出し被害が発生したという事例はありません。

BSL-4施設は現在、世界23カ国・地域の52カ所以上で稼働しています。また、研究や診断目的から、多くの施設が市街地の大学構内や病院に隣接しています。が、近隣に病原体が漏出し被害が発生したという事例はありません。



プレゼンテーション
感染症教育研究拠点形成で
私たちが目指すもの
安田 二郎
長崎大学熱帯医学研究所教授

BSL-4施設を設置して世界全体で感染症に対抗することが必要になります。実は今回の流行時に、日本の製薬メーカーが開発した薬が、エボラにも効果があることがわかったのですが、その研究はドイツのBSL-4施設から発表されました。残念ながら日本に施設がなかったため、国内でこのような研究を実施することができなかったのです。本来なら、日本は自然科学研究のレベルが高く、積極的参加でイニシアティブをとることができたはずなのです。

BSL-4施設は現在、世界23カ国・地域の52カ所以上で稼働しています。また、研究や診断目的から、多くの施設が市街地の大学構内や病院に隣接しています。が、近隣に病原体が漏出し被害が発生したという事例はありません。

BSL-4施設は現在、世界23カ国・地域の52カ所以上で稼働しています。また、研究や診断目的から、多くの施設が市街地の大学構内や病院に隣接しています。が、近隣に病原体が漏出し被害が発生したという事例はありません。

BSL-4施設は現在、世界23カ国・地域の52カ所以上で稼働しています。また、研究や診断目的から、多くの施設が市街地の大学構内や病院に隣接しています。が、近隣に病原体が漏出し被害が発生したという事例はありません。

BSL-4施設は現在、世界23カ国・地域の52カ所以上で稼働しています。また、研究や診断目的から、多くの施設が市街地の大学構内や病院に隣接しています。が、近隣に病原体が漏出し被害が発生したという事例はありません。

BSL-4施設は現在、世界23カ国・地域の52カ所以上で稼働しています。また、研究や診断目的から、多くの施設が市街地の大学構内や病院に隣接しています。が、近隣に病原体が漏出し被害が発生したという事例はありません。

BSL-4施設は現在、世界23カ国・地域の52カ所以上で稼働しています。また、研究や診断目的から、多くの施設が市街地の大学構内や病院に隣接しています。が、近隣に病原体が漏出し被害が発生したという事例はありません。

BSL-4施設は現在、世界23カ国・地域の52カ所以上で稼働しています。また、研究や診断目的から、多くの施設が市街地の大学構内や病院に隣接しています。が、近隣に病原体が漏出し被害が発生したという事例はありません。

BSL-4施設は現在、世界23カ国・地域の52カ所以上で稼働しています。また、研究や診断目的から、多くの施設が市街地の大学構内や病院に隣接しています。が、近隣に病原体が漏出し被害が発生したという事例はありません。

BSL-4施設は現在、世界23カ国・地域の52カ所以上で稼働しています。また、研究や診断目的から、多くの施設が市街地の大学構内や病院に隣接しています。が、近隣に病原体が漏出し被害が発生したという事例はありません。



プレゼンテーション
長崎大学による感染症教育研究拠点形成への取組み
調 漸
長崎大学副学長・学長特別補佐

BSL-4施設は現在、世界23カ国・地域の52カ所以上で稼働しています。また、研究や診断目的から、多くの施設が市街地の大学構内や病院に隣接しています。が、近隣に病原体が漏出し被害が発生したという事例はありません。

BSL-4施設は現在、世界23カ国・地域の52カ所以上で稼働しています。また、研究や診断目的から、多くの施設が市街地の大学構内や病院に隣接しています。が、近隣に病原体が漏出し被害が発生したという事例はありません。

BSL-4施設は現在、世界23カ国・地域の52カ所以上で稼働しています。また、研究や診断目的から、多くの施設が市街地の大学構内や病院に隣接しています。が、近隣に病原体が漏出し被害が発生したという事例はありません。

BSL-4施設は現在、世界23カ国・地域の52カ所以上で稼働しています。また、研究や診断目的から、多くの施設が市街地の大学構内や病院に隣接しています。が、近隣に病原体が漏出し被害が発生したという事例はありません。

BSL-4施設は現在、世界23カ国・地域の52カ所以上で稼働しています。また、研究や診断目的から、多くの施設が市街地の大学構内や病院に隣接しています。が、近隣に病原体が漏出し被害が発生したという事例はありません。

